

1. 人権が尊重され、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり
2. 良好な環境が整った、快適で安全・安心なまちづくり
3. 活力ある産業に満ちた、にぎわいあふれるまちづくり
4. 明日の彦根市を担う人を育(はくく)むまちづくり
5. 人とひととの交流をひろげ、市民文化を創造するまちづくり

生物多様性を守る



今回は、私たちのまわりの「生物多様性」と「外来生物」について紹介します。かけがいのない生物多様性を守るために私たちのできることをいっしょに考えてみましょう。
問い合わせ先 市生活環境課 ☎ 30-6116、FAX27-0395

▲芹川の河口付近で外来生物のナガエツルノゲイトウを取り除いているボランティアの人たち(5月9日撮影)

生物多様性の危機

地球上には、さまざまな環境に適応して進化し、未知のものも含めると3,000万種とも言われる、それぞれに個性を持った多様な生き物が生息しています。それらが森から海まで、さまざまな関係でつながっているのがこの地球なのです。自然がつくり出した多様な生き物とそれを育てる多様な生態系での命のつながりを「生物多様性」と言います。

私たちは自然から食べ物、木材、医療資源などさまざまな恵みを得ています。また、生態系は、呼吸に適したきれいな空気の提供や気候の安定にも重要な役割を果たしています。生物多様性は、自然の恵みそのものであり、私たちの暮らしと深くつながっています。

しかし、本来豊かであるはずの生物の多様性が、現在危機に瀕しています。その原因として人間活動や開発など、人が引き起こす影響があります。開発による生息域の減少や環境悪化、珍しい生き物の乱獲は今も続いています。また、地球温暖化による生物多様性への影響も深刻な問題になってきています。

外来生物と被害予防3原則

■ 外来生物

外来生物は、もともとその地域にいなかったのに、ほかの地域から入ってきた生き物のことを指します。本来、分布域でない場所につれてこられた多くの生き物は、その地に適応できず子孫を残すことができません。

しかし、まれに本来の分布域でない場所でも定着し、子孫を残すことができる生き物もいます。これらの中には、人間の生活や生態系に大きな影響を及ぼす生き物もいます。

■ 特定外来生物

特定外来生物は、外国が起原の外来生物で、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼす恐れがあるものの中から指定されます。

特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけでなく、卵、種子、器官なども含まれます。

下の表は、市内で定着している特定外来生物の一覧表です。

■ 予防するために

外来生物を人が持ち込むことによる生態系のかく乱も大きな問題になっています。

オオクチバスなどの外来生物は、在来生物を食べたり、生息場所を奪ったりするなど、地域の生態系を脅かしています。




被害を予防するために、上の表の3原則を守りましょう。

外来生物被害予防3原則

- 入れない**
悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に入れない
- 捨てない**
飼っている外来生物を野外に捨てない
- 拡げない**
野外にすでにいる外来生物は他地域に拡げない



表 市内で定着している特定外来生物一覧

名称	特徴	影響	
植物	オオキンケイギク	5~7月にかけてコスモスに似たオレンジ色の花を咲かせる。	在来種の生息域を脅かすなど、生態系への影響がある。  ▲オオカワヂシャ
	オオカワヂシャ	オオイヌノフグリに似た青い花を咲かせる。	
	ナガエツルノゲイトウ	水辺の湿った環境に生える多年草で白い小さな花を咲かせる。	在来種の生息域を脅かしたり、水路などをせき止める原因にもなる。  ▲オオフサモ
	オオフサモ	根は水面下にあり、茎や葉は水上にある多年草。葉は線形で薄い緑色。	
魚類	ブルーギル	幼魚では体側に7~10本のしま模様がある。成魚は暗褐色に黒ずみ、しま模様はやや不明瞭になる。	在来種を捕食し生態系に影響を与えたり、漁業被害が示唆されている。  ▲オオクチバス
	オオクチバス	体側から背にかけて不規則な斑点がある。腹側は黄味を帯びた白色。	
両生類	ウシガエル	背面は濃緑色で黒色の丸みをおびた模様があり、腹面は白色で咽こう部は淡黄色。	昆虫、甲殻類、魚類などのさまざまな生き物を捕食するため、生態系への影響がある。